

理研会報

発行日：平成27年3月22日

号数：No. 379

発行：印旛地区教育研究会理科研究部

H P : <http://rikainba.com>

メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

年度末は人事異動の時期。理科研究部の理事の先生方の中にも今年末をもってご勇退される先生方がいらっしゃいます(右記参照)。理研会報379号では、6名の先生を代表して大野尊史先生からメッセージいただきましたので掲載いたします。

本年度退職される理事の先生方

佐倉市立上志津小学校長	大野尊史先生
佐倉市立弥富小学校長	深山民夫先生
成田市立八生小学校長	松井 豊先生
成田市立橋賀台小学校教頭	松橋和彦先生
八街市立八街東小学校長	佐瀬大雄先生
四街道市立大日小学校長	阿部 猛先生

「理科研究部のますますの発展を願って」

佐倉市立上志津小学校 大野 尊史 先生

今年度末で退任する理事を代表して、一言ご挨拶申し上げます。私たち退任する理事一同、理科研究部には感謝の気持ちでいっぱいです。それは、研究部活動を通して多くを学び、成長させていただいたことにあります。その要因の一つに「共同研究」と「全部会提案」のスタイルがあります。これは、理科研究部の宝です。学校を異にする者が集まり、議論し合い、研究を深めるとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が高まりました。また、多くの先輩に学ぶとともに、理科の仲間もたくさん得られました。理科の仲間は人生の友です。

さて、続いて、今後の理科研究部に期待したいことを申し上げます。印旛の研究部は、千葉県では千葉市と並ぶ大きな組織です。維持発展のためには、今後とも、研究部員の確保が重要です。魅力ある研究部をPRし、理科の輪を広げるとともに、研究の質を高め、千葉県の理科をリードして行ってほしいと願います。平成38年全国小学校理科研究協議会千葉大会が決定されました。これから準備が始まります。千葉県の中核を担い、全国に発信できる研究部を目指してほしいと願います。

次に、質の高い研究についてです。科学の研究においては、実証性、再現性、客観性は重要です。このことはもっと理科の研究においても重要視されるべきであると考えます。有効なデータをもとに考察する。誰もが納得する根拠を示すなどを心掛けることは大切です。そのうえで、魅力ある研究テーマ設定、指導法の改善、教材開発が望まれます。研究の基本は、児童生徒の姿に学ぶことから始まります。情報活用とともに先生方の豊かな発想と授業デザイン力でオリジナリティーあふれる指導法を開発し情報発信して行ってほしいと願います。

最後になりますが、印旛理科研究部のますますのご発展と会員の皆様のご活躍、そして研究を通して新しい理科の扉が開かれることを祈念し、挨拶いたします。

本年度末でご勇退される先生方には、すべての理科学研究部員が本当にお世話になりました。理事以外の先生方のお名前をご紹介できず申し訳ありませんが、今回ご勇退されるすべての先生方に支えられ、理科学研究部が現在のような姿に育てられたといっても過言ではありません。先生方の思いを受け継ぎ、ますます充実した研究部になるように活動していきたいと思います。先生方の今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

お知らせとお願い

- ・例年新年度の印教研総会の後の懇親会が、歓送迎会を兼ねております。今回メッセージを掲載できなかった諸先輩方からお話をうかがうチャンスです。多くの先生方に参加していただけると幸いです。よろしくお願いいたします。
- ・学校現場を離れ行政等に異動された先生方が把握しきれず、ご迷惑をおかけすることがあります。大変お手数ですが、異動先を理科学研究部へお知らせいただくと助かります。理科学研究部へのメール (rikainba@yahoo.co.jp) または下志津小学校 (TEL 043-487-8550 FAX 043-462-5034) 中村まで直接お知らせください。ご協力お願いいたします。

理研会報も本年度の最終号となりました。多くの先生方に記事をお寄せいただき、今年度予定より1号多い7号の理研会報を発行できました。ご協力に感謝いたします。